

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成23年2月25日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078000082		
法人名	有限会社 まんてん		
事業所名	グループホーム まんてん		
所在地	福岡県久留米市三潴町草場33の1		
自己評価作成日	平成23年1月3日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年1月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭に近い雰囲気を作り出すように心掛けている。</p>
--------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年に開設した“グループホームまんてん”は、周囲に新しい住宅地ができたことで、新たな住人の方々と交流が期待できる環境となった。開設から7年が経過し、地域の一員として公民館行事に積極的に参加したり、近所の方が自分の畑で作った野菜を差し入れて下さったり、ボランティアの方々が訪問して下さるなど、地域の方々と交流が盛んに行われている。“一人ひとりを大切に 優しい笑顔と温かい心で 人に優しく 自分に厳しく”という理念は、代表からホーム長、管理者、職員へと着実に受け継がれ、代表より、「うちの職員は満点」というお言葉を頂いたように、職員同士の仲も良く、家庭的な雰囲気を大切にされたケアが日々実践されている。ご利用者の心身状況の変化も生じてきているが、個別のリハビリに力を入れ、「ご本人ができることはご本人にして頂く」ということを大切にしながら、日々の暮らしの中でそれぞれに役割を担って頂き、お力を発揮して頂いている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は事業所理念を理解し実践している。	「一人ひとりを大切に、優しい笑顔、人に優しく自分に厳しく」という理念の基、経営方針の中に、「地域に溶け込みながら、心身ともにその人らしい暮らしが出来る介護を提供する」という言葉が明示されている。毎月のミーティングの中で、日々のケアについて話し合う時間を設けており、ご本人の思いを大切にしたケアの実践に努めている。	日々、ご利用者に寄り添いながら会話する事が心がけているが、忙しい時間帯であってもゆっくり会話できる時間を更に増やせるように、職員全員で検討していきたいとホーム長は考えている。更なる取り組みに期待していきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	職員には近隣住民の方への「挨拶を徹底し、遊びに来ていただけるよう声掛けも行っている。	だご汁会等、老人会主催の行事にご利用者は参加しており、施設長が率先して地域の清掃活動にも参加している。ボランティアの方々がホームに来て下さり、日舞や大正琴を披露される等、地域の方との交流が行われている。また、自宅で採れた野菜を差し入れて下さる関係も築かれている。	地域の方々が気軽に遊びに来て頂けるようなホームを目指し、“介護保険の事など、いつでもご相談下さい”と、地域の方々に声かけを続けている。ホームに来て頂けるように、ホーム主催の行事等、検討されてみてはいかがであろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、区長、老人会会長、地域住民代表、児童民生委員の方々に対して、認知症という病気に対して理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、外部評価の結果が出た後の運営推進会議で報告を行うと共に、意見をいただいている。	ご利用者、ご家族、市の方々、老人会会長、民生委員等に参加頂き、3か月に1回、運営推進会議を行っている。ホームの課題について検討し、助言を頂いたり、ご利用者の健康管理について、それぞれのお立場から有意義なご意見を頂いている。開催回数に関しても、2か月に1回の開催を目標に、前向きに調整を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や会議の時に相談し助言や協力をいただいている。	ホーム長は、運営推進会議以外に包括圏域ごとの勉強会に出席し、市の担当者との交流を図っている。市の担当者は、運営推進会議への参加だけでなく、随時ホームにメールで研修の情報を送る等の協力も継続して頂けており、良い連携が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員は、危険性・緊急性・一時性がない場合は、身体拘束を行わない介護を実践している。	職員は身体拘束にあたる行為を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。夜間以外、玄関の鍵も施錠されておらず、自由に出入りして頂いている。ご利用者の体調や気分により、夜間帯や早朝に転倒の危険性のある方については、見守りを強化すると共に、ご家族に対してリスクの説明を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は利用者がどのような場合においても虐待される事のないように注意防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての冊子をいつでも読めるよう設置している。	外部の研修を受講し、ホーム内研修の場などで職員全員に説明を行っている。必要と思われるご利用者については個別に説明を行い、家族会の場でも制度の説明を行った。現在、制度を利用している方はおられないが、必要なご利用者については制度の活用につながるよう、今後も支援を行うようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うと共に、書面上で同意をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開き、意見要望を聞いている。	2ヶ月に1回、写真やお手紙をご家族に郵送し、ホームでの様子をお伝えし、ご家族の訪問時や電話連絡の時に、ホームの運営等について希望や意見を伺うようにしている。「事故が起きた場合の保障について議題にあげてはどうか」等、ご家族から貴重な意見を頂くこともあり、頂いた意見は職員全員で検討し、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見を聞いている。	日常の業務や勉強会を通して、職員から、ケアの方法について質問が上がる事が多く、活発な意見交換が行われている。職員は、食に対する意識も高く、あちこちの美味しい物について情報収集した内容を伝え合い、購入して頂く等、運営に活かす取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績に対しては、賞与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、一切の偏見はしていない。又職員個々の能力を活かせるよう努めている。	施設長は、職員の採用時、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、明るく、一般常識のある方を主な基準として採用を行っている。お料理が得意な職員も多く、毎日のお食事作りの場で力を発揮して頂いている。希望休が取れるよう勤務調整が行われ、働きやすい環境となっており、職員の退職は殆んどない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修で行っている。	管理者は、月1回のミーティング時に、理念と合わせて、ご利用者の人権について職員に話し、職員同士で考える場を設けている。同じ行動や発言を繰り返す方に対して、イライラする時は、「自分のお父さん、お母さんと思って接すると腹も立たないのでは」と説明し、職員の言動で気付いたことは、職員に伝えるようにしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ多くの研修が受けれるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括圏域ごとの事業所交流発表会に参加している。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートに本人の情報及び要望を書き込み職員全員に周知し関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限りのご要望は聞き関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時点で他サービスも含めた提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には「家族」という言葉を念頭に日々活動を行うよう教育している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム・御家族が協力して利用者本人を支えていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は設定しておらず、いつでもなじみの人に来ていただけるようしている。	ご利用者がこれまでに大切にされてきた、馴染みの人や、場所との関係が継続されることが大切であると職員は考えている。ご利用者からのご要望にて、昔、住まれていた住居付近へ出かけたり、お墓参りや、馴染みとなった近くのスーパーにお連れしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員一人ひとりが把握し、利用者間でトラブルがあった場合には必ず職員が仲裁し、仲を取り持っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も時折、近況を尋ねたりしている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格・生活歴・経験等を考慮できる限り本人の意向に沿って生活できるよう取り組んでいる。	入居時に、ご利用者とご家族から、生活への意向やご希望を伺い、入居後も、ご家族の訪問時にお話を伺う機会を設けている。日々の活動を通して、ご本人が興味を示されるものは何か、ご本人のご希望に沿った支援ができていないかを確認し、言葉での表現が難しい方には、表情や行動からご本人の気持ちを汲み取る努力を続けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴、経験、出来事などできる限りの情報を収集し、御家族及びご本人と話し合い、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日誌を作成し、その日の心身常態、一日の過ごし方など職員全員が把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しについては、ミーティングにおいて全職員で話し合い、より良い介護方法を選択するようにしている。	ご利用者、ご家族の意向を基に計画が作成されており、課題・目標には“地域で暮らす”という視点が盛り込まれている。また、草花の手入れや草取り、洗濯物たたみ等、ご利用者の役割や楽しみごとにも計画に盛り込まれている。日課計画表には、具体的なケア内容が記載されており、ケアの統一が図られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日志を個別に作成し現在の利用者の心身状態を職員全員が把握している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び御家族のニーズに対しては、最大限で対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社共・区長・老人会・児童民生委員・ボランティアの方々、警察消防機関等と協力しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用前に本人及びご家族に選んでいただいている。	泌尿器科、精神科の受診については、職員が受診に付き添い医師への報告を行っている。週1回の往診と訪問看護を利用して頂き、変化があった場合は、ご家族に電話で報告を行っている。体調の変容があった時は、ホームの看護師が主治医へ電話で相談し指示を頂く等、病気の早期発見・早期治療につながるよう努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の日々の気づきは、毎朝夕の申し送り時、特変事、ミーティングなどで看護職員に相談し、利用者の健康保持に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には必ず職員が同行しドクターとの情報交換を行っている。入院中も病院へ訪問し、利用者の状態を把握するよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所・御家族・御利用者・医療機関と連携を取りながら終末期のケアに取り組むことを御家族、ご本人に説明し納得していただいている。	入居時に、“看取り介護に関する指針”に基づいて説明を行い、ご利用者、ご家族に同意を頂いている。ご家族の面会時や家族会の後などに個別に話す機会を設け、ご家族の意向も確認するようにしている。他のホームの取り組みを参考にしたいということで、包括圏域勉強会に参加し、終末期ケアに関する事例発表を聞き、今後のケアに活かせるよう体制を整えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員により、日々の活動の中で執り行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。	年に2回、消防署の方の指導を受けて、夜間を想定した避難訓練を行っている。ホームの第一避難場所として、場所を提供して頂いている隣家の方も訓練に参加して下さっている。あらかじめ、近隣の方に災害時の協力依頼を行っており、協力体制は整えられている。	災害に備えて、お米や乾麺、水やスポーツドリンクなど常備しているが、他に必要な物はないか、更に検討していきたいと考えている。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者がなじみの関係にはあるものの言葉かけには注意するよう指導している。	職員は、ご利用者へ尊敬の念を持って接しておられ、日々のケアの中で、ご利用者の自尊心を傷つけない声かけを心がけている。個人情報の取り扱いについても職員全員細心の注意を払い、情報漏洩しない取り組みが実践されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で何事においても最初は本人に選択できるよう言葉を掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるものの、無理にその流れに乗せるような対応はしていない。利用者個々のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、ご家族に納得していただいた上で、訪問理容を利用していただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、職員が冷蔵庫にあるもので、利用者の意見を取り入れて立てている。	管理者、職員は、食に対するこだわりを持っておられ、日々、職員間で情報交換が行われている。“美味しい”と言われるお茶や酢などを取り寄せている。ご利用者と一緒に食材の買出しに行き、料理が得意な職員が主に調理を担当している。調理の下ごしらえやテーブル拭きなど、ご利用者一人ひとりができることに取り組まれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日個々に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの支援に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう対応している。	日中はトイレでの排泄を心がけ、失禁が目立ってきた方にも、極力紙パンツを使用しないよう努めている。排泄支援の際、ご利用者が不安にならないよう、目線を合わせそと声かけしている。排泄を失敗された方には、他のご利用者に気付かれないよう、お部屋にお連れし、手早く交換を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・排尿管理を行っており、必要な場合には、かかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日以外に希望があれば対応している。	週3回、13時から15時30分と入浴時間を決めているが、ご利用者の希望や体調に応じて、入浴時間以外でも対応している。入浴を楽しんで頂けるよう、入浴剤を使用したり、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯など行っている。入浴を好まれないご利用者には、職員が交代したり、声かけの方法を変えるなどの工夫を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の自由に休息を取っていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護日誌に、薬の用法、用途を添付しており、職員全員が把握している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし草花の手入れ、草取り、洗濯物を干したり畳んだり手伝ってもらっており、利用者にも笑顔が見られる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のは、利用者一人ひとりに聞いて支援している。普段いけない場所への外出は、職員・利用者全員で話し合って場所を決めている。	天候の良い日は、午前、午後と、1日2回の散歩を日課とされているご利用者もおられる。外出をお好きでない方には、ベランダにて外気浴をして頂いている。ご利用者のご希望をお聞きして、大型スーパーへ買い物に出かけたり、季節の行事として、石橋文化センターのパウ園や中山大藤祭りに出かけるなど、気分転換を図って頂いている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい方は、買い物する時にホーム側が立て替えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいといわれる方は現在ほとんどいない。電話の支援は希望があれば行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植木、草花、装飾品、人形、四季折々の写真、利用者の日々の写真、手作り作品等を全体に取り入れ明るく和やかな空間作りにかけている。	玄関には季節の黄菊が飾られ、ホームの至るところに、お花や観葉植物がさりげなく飾るなど、季節を感じて頂けるような工夫がされている。リビングは窓から射し込む光だけで十分明るく、光の調節はカーテンなどでこまめに行っている。ソファの下など、見えない処に備長炭を置き、消臭効果を図っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やダイニング、廊下などソファや椅子などを設置し気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前に極力使い慣れたものを持ち込んでいただくようご家族に要望している。	ホームの備え付けは、ベット、カーテン、エアコン、照明となっていて、入居の際ご家族に協力して頂き、自宅で使っていた寝具(ご本人の布団でご自分の部屋と認識される方も多い)、クッション、座椅子、テレビなど、ご利用者が居室で居心地良く過ごして、頂けるように工夫されている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室及び共有空間において、利用者にとっての障害物を極力排除し、安全に移動できるよう努めている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名: グループホーム まんてん

作成日: 平成 23 年 3 月 31 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員は理念に基づき職務を遂行しているが、利用者に対して、寄り添う時間を増やして生きたい。	職員は、事業所理念を理解し職務を遂行しているが、来年度からは、理念をより分かりやすく具体化し職員が理念に基づき仕事ができるようにしたい。	理念の具現化及び、計画的な職員増員により利用者と職員が寄り添う時間を増やす。	1 ヶ月
2	2	ある程度の近隣住民の方や、老人会との付き合いはあるが、ある一線からなかなか進まない。	一回でも多く今年度より、近隣住民、老人会との交流機会を増やす。	積極的に地域の催しに参加する。又、ホーム側でも近隣の方々と交流を図れる催しを考え実行する。	12 ヶ月
3	3	ある程度の災害時備蓄は常備しているが、十分とはいえない。	早急な必要備蓄量の把握と購入。	早急に必要量を備蓄する。	1 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月